

鶴岡市水道事業ビジョンの概要（改定版）

1. 策定の趣旨

本市では、安全な水道水を安定して供給することを目的に、平成29年3月に「鶴岡市水道事業ビジョン」を策定し、本市水道事業の進むべき方向性とその実現に向けた基本的な考え方を示すとともに、事業運営の方針としています。

2. 基本理念

『地域とともに 信頼を未来につなぐ 鶴岡の水道』

3. 計画の位置づけ

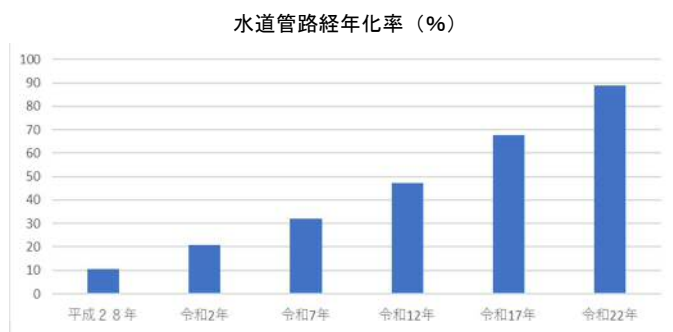
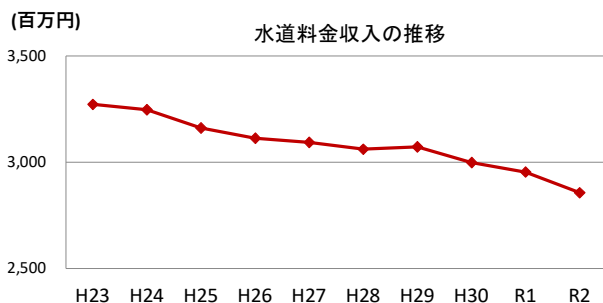
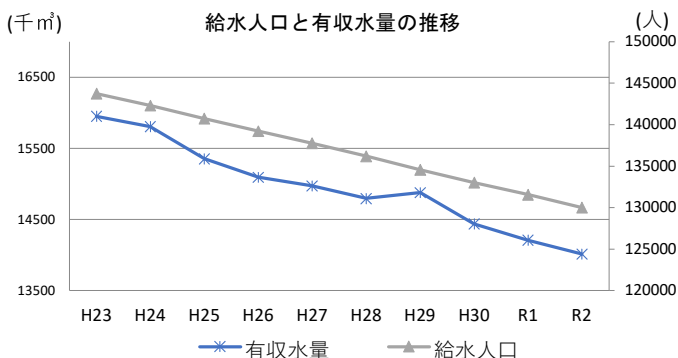
本ビジョンは、「第2次鶴岡市総合計画」を上位計画に位置づけ、その基本計画内に「安全な水の安定供給」を施策として掲げています。策定にあたっては、厚生労働省の「新水道ビジョン」及び山形県の「山形県水道ビジョン」に基づいた計画としています。

4. 計画期間

平成29年度から令和8年度までの10年とします。

5. 水道事業の現状

少子高齢化等による人口減少が進み、有収水量が減少しています。また生活様式の変化を一因とする水需要の低下により、水道料金収入が減少する一方、水道施設については昭和50年代の拡張期に整備した管路が徐々に更新期を迎え、計画的な更新が必要となっています。施設の統廃合や官民連携など、業務効率化による費用削減と合わせ、収益確保のため水道料金の適正化が必要となります。



6. 目指すべき方向性と施策項目

「持続」「安全」「強靱」を目指すべき方向性として施策を展開します。

いつまでも皆様の近くにあり続ける水道

- (1) 経営状況
- (2) 効率的な施設配置、施設稼働率
- (3) 人材の確保
- (4) 情報収集
- (5) 環境対策
- (6) 官民連携
- (7) 広域化の取り組み

持続

いつ飲んでも安全な信頼される水道

- (1) 水質検査
- (2) 水質管理の体制
- (3) 安全性に関する説明責任
- (4) 水源保全の取り組み
- (5) 給水装置の安全性 及び 給水装置工事事業者の資質の確保
- (6) 鉛製給水管対策
- (7) 貯水槽水道の衛生管理

安全

災害に強く、たくましい水道

- (1) 基幹施設の耐震性
- (2) 重要給水施設
- (3) 地域間の水運用
- (4) 災害時の体制
- (5) 資機材の調達
- (6) 需要者への災害対策情報と連携

強靱

<参考> 計画期間の前半（平成29年度から令和3年度まで）に実施した主な取組

包括的業務委託の実施

民間活力の導入及び効率的・効果的な事業運営のため、料金徴収業務、窓口業務等の包括的な業務委託を平成29年度から実施しています。

アセットマネジメント詳細型（タイプ4D）への移行作業

将来にわたり持続可能な水道事業を実現するため、中長期視点に立ち、更新需要及び財政収支見直しを含めた効率的・効果的な管理運営手法に移行しました。

水道施設の統廃合

温海地区の水道施設の一部について平成29年度に統廃合を実施しました。

水道施設及び管路の耐震化

水道施設耐震診断計画に基づき、基幹施設の耐震化を計画的に進めています。
このうち、施設規模が最も大きい高坂配水池の耐震化は令和3年度に完了し、重要給水施設である災害拠点病院までの管路耐震化整備は平成30年度に完了しています。

<課題> 水道事業の将来に向けて

人口減少により給水収益が減少する一方、施設や管路の更新に多額の費用が必要となることから、水道事業の広域連携など、効率的な事業運営が課題となっています。

このため、国及び県の方針のもと、受水団体と連携・協力しながら、本市水道事業ビジョンの基本理念が将来にわたり持続するよう取り組んでいく必要があります。

～ 持 続 ～

いつまでも皆様の近くにあり続ける水道

施設整備・施設配置

- アセットマネジメント手法の導入による計画的な施設の整備と配置を行い、施設規模の適正化を目指します。
- 施設の統廃合やダウンサイジングについて、将来予測に基づく給水人口・給水量を勘案し検討を継続します。

環境対策

環境負荷の少ない工法・資材を採用するとともに、資源の再生・再利用化につながる取組を強化します。

広域連携

水道事業の広域連携のあり方について、県及び受水団体（酒田市及び庄内町）と連携しながら協議を継続します。

経営効率化

鶴岡市上下水道事業経営効率化計画に基づき、引続き経費削減のための取組を実施します。

人材確保

技術継承や人材育成の手法を確立するとともに、業務の質や内容に対応した職員の適正配置を進めます。

官民連携

平成29年度から実施している料金徴収及び窓口業務等の包括的業務委託について、委託業務範囲を更に拡大し、令和4年度から8年度までの長期継続契約で実施します。

拡大する委託業務 給排水設備工事申請受付 及び
竣工現地確認業務 等

～ 安 全 ～

いつ飲んでも安全な信頼される水道

水質管理

鶴岡市水安全計画に基づき、安全な水を提供します。

■ 水源

月山ダム水源については、関係機関と連携しながら保全に取り組みます。

自己水源については、定期的な巡回と適切な水質検査により、水質状況の監視を行います。

■ 浄水施設

原水の状況を水質計器で測定し、最適な浄水処理を実施するとともに、異常発生時は早急に対応する体制を維持します。

■ 配水池

施設監視装置により、水質状況を24時間監視するとともに、異常発生時は早急に対応する体制を維持します。

■ 配水管

各家庭に配水するための管路の洗管を、作業計画に基づき適切に実施します。

水質検査

鶴岡市水質検査計画に基づき、安全な水を提供します。

水質検査内容	種別	項目数	対象箇所	頻度
水道法による水質規準項目	浄水	51	30	年1回以上
原水水質検査項目	原水	39	31	年1回
水質管理目標設定項目	浄水	19	30	年1回
水質管理目標設定項目	原水	15	21	年1回
毎日水質検査項目	浄水	4	47	1日1回
指標菌2項目検査	原水	すべての水源		年12回以下
クリプトスポリジウム				必要に応じ実施

給水装置／鉛製給水管

- 給水工事業業者の資質向上のための取組を継続します。
- 宅地内の鉛製給水管の早期交換を促進するための取組を継続します。

～ 強 靱 ～

災害に強く、たくましい水道

更新／耐震化

既設配水管の耐震管への更新整備と、水源・配水池施設の耐震化または耐震化診断を計画的に進めます。

■ 配水管の耐震化（計画期間H26年度～R35年度）

計画期間の耐震化延長合計 75,893m（当初計画値）
うちH26～R5年度整備予定 14,798m（当初計画値）

■ 耐震化診断施設

対象施設 77箇所（当初計画値）
うちH26～R1年度実施済施設 25箇所

■ 水源・配水池の耐震化

耐震化対象施設 14箇所（当初計画値）

地域間水運用

配水システムの連結可能な箇所について、解析システムを活用し、給水可能区域を検証しながら管路整備を進めます。

災害対策

- 応急給水訓練の実施
災害時に対応するための給水訓練を定期的に行います。
- 給水車の更新
災害時に対応するための給水車を更新します。
- 無線設備の更新
全電源喪失時に備えた無線設備に更新します。
- SNSの活用
災害発生時に有効な情報を迅速に発信します。



災害時における
応急給水の状況



住民参加による
応急給水訓練